指導計画案

指導上の重点目標

1　学習の目標を認識する。
2　和歌の形式上の特徴を把握する。
【万葉集】
1「万葉集」について理解する。
2　各作品について解釈・鑑賞する。

学習活動

導入

❶本教材での学習事項を確認する。
(i)和歌の特質について学ぶ。
(ii)和歌史を知ることによって日本文化の特色について学ぶ。
❷和歌について知っていることを発表する。知技
❸「万葉集」の概要を学ぶ。

展開

❶各作品を各自筆写する。知技
❷各作品を句切れや調子に注意しながら音読する。思判表
→「学習のポイント」1
❸各歌について学ぶ。
(i)作品の大意をつかむ。
(ii)古語の意味・用法や修辞について理解する。（「和歌の修辞」を参照する）知技
→「言葉と表現」1・2
(iii)作品に描かれた情景を考える。
(iv)作品の背景を知り、作者の心情を想像しつつ鑑賞する。

指導上の留意点

❶筆写は各時限の進行に沿って家庭学習にする。
❷範読し、斉唱・独唱させる。句切れや調子に注意してゆっくり読ませる。音読は各作品の解釈・鑑賞時にも取り入れる。
❸(i)予め家庭学習によって現代語訳を考えさせておく。
(ii)重要古語や修辞を中心に、古語辞典などで調べさせておき、指名解答させる。
(iii)作品の主題を確認し、どのような特徴をもった歌か、自由に発言させる。
(iv)プリントなどによって作品の背景

❷和歌が日本人に与えた影響を生徒の身近な事柄から引き出せるとよい。
❸プリントや補助教材（国語便覧など）によって、時代・特徴をつかませる。

【古今和歌集】
１「古今和歌集」について理解する。
２各作品について解釈・鑑賞する。

まとめと発展

❶「万葉集」の特色について整理する。思判表
（各作品について(i)〜(iv)の活動を行う。）
思判表

導入

❶音読などにより「万葉集」の作品を振り返り、修辞法などを確認する。
❷「古今和歌集」の概要を学ぶ。知技
❸「古今和歌集」が平安時代に成立したことを踏まえ、仮名の発明や貴族社会の成立など時代の変化がどのように和歌に影響したか考える。思判表

展開

❶各作品を句切れや調子に注意しながら音読する。思判表
→**「学習のポイント」１**
❷各歌について学ぶ。
(i) 作品の大意をつかむ。
(ii) 古語の意味・用法や修辞について理解する。知技
→**「言葉と表現」１・２**
(iii) 作品に描かれた情景を考える。
(iv) 作品の背景を知り、作者の心情を想像しつつ鑑賞する。思判表
→**「学習のポイント」５**
（各作品について(i)〜(iv)の活動を行う。）

まとめと発展

❶「古今和歌集」の特色について整理する。思判表

→**「学習のポイント」２・５**
を説明し、鑑賞を深めさせる。

❶枕詞や序詞が「声の文化」の所産であることを意識させる。
❷プリントや補助教材（国語便覧など）によって、時代・特徴をつかませる。
❸仮名の発明により女性が文学活動に積極的に参加したことや、和歌が貴族に必須の嗜みであったことなどを押さえさせる。

❶範読し、斉唱・独唱させる。句切れや調子に注意してゆっくり読ませる。音読は各作品の解釈・鑑賞時にも取り入れる。
❷
(i) 予め家庭学習によって現代語訳を考えさせておく。
(ii) 係り結び・掛詞などの確認をする。

❶「万葉集」との比較などを取り入れるとよい。

【後拾遺和歌集】 【新古今和歌集】 1「後拾遺和歌集」「新古今和歌集」について理解する。 2 各作品について解釈・鑑賞する。 【全体】 1「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の特徴を確認する。 2 和歌文学の流れを理解する。 3 各自任意の歌について、鑑賞をまとめる。	**導入**	❶ 音読などにより「古今和歌集」の作品を振り返り、修辞法などを確認する。 ❷「後拾遺和歌集」「新古今和歌集」の概要を学ぶ。知技 ❸「新古今和歌集」が鎌倉時代に成立したことを踏まえ、「古今和歌集」以後の和歌の文化の発展の在り方について考える。思判表
	展開	❶ 各作品を句切れや調子に注意しながら音読する。思判表 →**「学習のポイント」1** ❷ 各歌について学ぶ。 (i) 作品の大意をつかむ。 (ii) 古語の意味・用法や修辞について理解する。知技 思判表 →**「言葉と表現」1・2** (iii) 作品に描かれた情景を考える。 (iv) 作品の背景を知り、作者の心情を想像しつつ鑑賞する。思判表 →**「学習のポイント」3・5** （各作品について（i）～（iv）の活動を行う。）
	まとめと発展	❶「新古今和歌集」の特色について整理する。思判表 ❷ 各歌集の歌風・修辞法などについて比較し、特徴をまとめる。思判表 ❸ 和歌史の流れをまとめる。知技 思判表 ❹ 各自好きな歌を選び、学習した内容を踏まえて鑑賞文を書く。主態

❶ 掛詞は「文字の文化」の時代になって発展したことを意識させる。 ❷ プリントや補助教材（国語便覧など）によって、時代・特徴をつかませる。 ❸ 新しい表現を求める過程で本歌取りのような古典摂取が行われたことなどを伝える。	❶「古今和歌集」との比較も取り入れる。 ❷「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の特徴が比較できるような表を作成し、穴埋め問題などにするとよい。
❶ 範読し、斉唱・独唱させる。句切れや調子に注意してゆっくり読ませる。音読は各作品の解釈・鑑賞時にも取り入れる。 ❷ (i) 現代語訳、重要古語は家庭学習にし、調べさせておく。 (ii) 本歌取りについて理解を深めさせる。	